

令和2年5月15日 始業式での校長あいさつ

皆さん、始めまして。校長先生の名前は佐々木英明と言います。三沢コミュニティの中にある、よねざわ昆虫館の館長さんもしていて、自然が大好きです。どうぞよろしく申し上げます。

さて、淡い緑が美しい季節となりました。新しい学年に進級した2年生から6年生の皆さん、進級おめでとうございます。

今年は、コロナウイルス感染症が、日本中に広がったために、いつものように学校を始めることができず、今日、やっとスタートすることができました。来週から、まず、二つのグループに分かれて2回ずつ登校し、そのあとは、全員で毎日登校できるようになります。

3月から学校はお休みになり、行きたいところに行くこともできず、皆さんは、毎日つらい思いをしたことでしょう。ここまでの期間よくがんばりました。いよいよ新しい学年で、新しいクラスで、新しい先生と新しい勉強をしたり、友だちと遊んだり、おいしい給食を食べたりできるようになります。でも、コロナウイルスには、引き続き気を付けなくてはならないので、約束事を守り、自分でもよく考えてみんなで協力して安全で楽しい毎日を過ごしていきましょう。

さて、何はともあれ、新しい学年のスタートなので、今日は校長先生から、今年度、皆さんと先生たちみんなでがんばっていきたいことをお話しします。皆さんは、これまでも、「5本の苗木、勇気、本気、根気、元気、やる気」を大切にしながら、「かしこい子ども、やさしい子ども、たくましい子ども」になれるように頑張ってきましたね。この5本の苗木は、皆さんにとって、今までも、そして、これからも、勉強や生活をするうえで大事なエネルギーになるので、必ず続けて欲しいと思っています。そして、そのエネルギーをもとにして、みんなでこれから特に頑張っていきたいことは、「あ」からはじまる三つの事です。

一つ目の「あ」は「あいさつ」です。

人と人が優しいつながりを持つには、まず、笑顔でさわやかにあいさつし合うことがよいきっかけになります。たくさんの人と心を通い合わせることができるよう、先生にも友達にも、地域の方に対してもさわやかで気持ちの良い挨拶をしていきましょう。

二つ目の「あ」は、「ありがとう」です。

皆さんは、友達や家族のことを思って、相手のためにとしてあげることも多いのではありませんか。なにかしてあげたあとに、「ありがとう」と言われたらどんな気持ちになるでしょう。きっと、してあげて良かった、また何かしてあげたいと思うのではないのでしょうか。お互いに「ありがとう」の言葉をかけあえば、思いやりでつながる関係になれるはずです。「ありがとう」は心を繋ぐ「魔法の言葉」です。

三つ目の「あ」は、「あたたかい言葉がけ」です。

人に何か伝えるとき、私たちは言葉で伝えますね。話したり、書いたりして伝えます。ところが、時々、相手の人を怒らせたり、悲しい気持ちにさせたりしてしまうことがありますね。なぜでしょう？それは、相手がそう思う言葉を選んで、そう感じる言い方で伝えてしまったからです。

例えば、転んでしまった友だちに「大丈夫？」と声をかけるのと、「あ～あ、何やってんの？」と声をかけるのでは全く違います。「大丈夫？」と話しかければ、自分のことを心配してくれたんだと伝わりますが、「あ～あ、何やってんの？」と言えば、馬鹿にされたように感じますね。心配してもらったと思えば、相手のことも心配してあげたくなるし、馬鹿にされたと思うと相手のことを良く思わなくなって、お互いにいやな気持ちや悲しい気持ちになってしまいます。言葉を選んで、相手の心を傷つけない、相手の心を暖めてあげるような言葉を使うようにしていきましょう。

三つの「あ」を一人一人が心がけて、さわやかにあいさつを交わし、ありがとうと笑顔で感謝し、あたたかい言葉をかけ合うそんな学校をつくりたいと思います。みんなで、頑張りましょうね。

さて、大変残念ですが、先ほども言ったようにコロナウイルスがなくなったわけではありません。コロナにかからないように気を付けながらの生活は、気持ちも沈みがちです。でも、こんな時だからこそ、笑顔で過ごしましょう。優しい気持ちで過ごすことができるように、学校でも家でも地域でも、「あいさつ」「ありがとう」「温かい言葉がけ」を心掛けましょう。コロナウイルスから自分と家族を守るために、マスクをつけ、手洗いや換気を忘れずにしましょう。

スタートが遅れた分、大変なこともあります。でも、みんなで力を合わせれば乗り越えられるはずです。そして、南部小学校の長い歴史の中でも最高の学校、「南部小学校2020」をみんなの力でつくっていきましょう。